

## 歩々是道場

(ほぼこれどうじょう)

県立高校改編により、彦根西高校と彦根翔陽高校が年度進行とともに併合され、平成30年4月、3学年が揃った形で彦根翔西館高校がスタートしました。

この彦根翔西館高校剣道部の顧問花房聡先生から私どもに新しい部旗の揮毫のご依頼をいただきました。浅学菲才、殊に書道は全く素人の身、固辞いたしました。重ねてのご依頼にお断りの言葉を失い、お引き受けしてしまいました。

この言葉は、釈迦の弟子維摩<sup>注</sup>居士(ゆいまこじ)の逸話に由来します。維摩居士に会ったある人が「どちらに行ってこられましたか」と聞きますと、居士は「道場です」と答えました。しかしよく知られた道場は遠く離れた場所にあったので、「その道場とはどこにあるのですか」と再度聞きますと、居士は即座に「直心是道場」(素直な心を持っていれば今いる場所が道場そのものだ)と答えたのです。

「修行には、場所よりも心の持ち方が大切だ」というこの教えを、「日常の一足一足の歩みが修行そのものだ」と言い換えたのが「歩々是道場」という言葉で「直心是道場」と同じ意味で語られている言葉なのです。

ところで、この禅語に触れるたびに私は高村光太郎の「牛」という詩を連想します。

— 牛はのろろと歩く 牛は野でも山でも道でも川でも 自分の行きたいところへは  
まっすぐに行く 牛はただでは飛ばない ただでは躍らない がちりがちりと  
牛は砂を掘り土を掘り石をはねとばし やっぱり牛はのろろと歩く (以下略) —

詩は読者の心によって様々に解釈されるものかもしれませんが、この詩の愚直でたくましい牛の歩みから、くじけそうになった心に勇気を得たという人も多いと思います。

剣の道を志す私たちにとって、道場での稽古や日常生活の中で、一步一步足を踏みしめながら、心と技を練っていくことは極めて大切であると思います。

翔西館の部員諸君は、今、先生方の教えを受け、素直な心で剣道に打ち込んでいます。今後、この部には必ず立派な伝統が築き上げられると確信していますが、この部旗の言葉がそのことに多少なりとも役立つことができれば、私にとって無量の喜びとなります。

**注) 居士(こじ)：出家せず在家のまま仏弟子となり修行している人のこと。**

**【出典】『維摩経講話』(鎌田茂雄 講談社学術文庫) 『禅林句集』(柴山全慶編 書林其中堂)**

**『禅語百選』(松原泰道 祥伝社) 『高村光太郎—日本詩人全集』(新潮社)**

### <翔西館高校の前身2校の剣道部について>

彦根西高校には、岩崎正宏、石田承玉、乙須純一、納屋誠一、上野博文、花房聡各先生など錚錚たる方々が相次いで顧問となり、昭和41年に八幡商業と並んで、本県初の女子剣道部が生まれるなどの伝統を誇る剣道部があり「百雑碎」(様々な雑念を打ち砕け)という石田承玉先生揮毫の部旗があった。

彦根翔陽高校は、彦根西高校の商業学科が独立し、彦根南高校、彦根商業高校、総合学科の彦根翔陽高校と変遷し、剣道部を上野博文、寺井詔一郎、神崎善明、竹中大芳、中村新一、金子史朗各先生など立派な顧問が指導され、村中隆之先生揮毫の「無畏」(畏れの気持ちを捨てよ)という部旗があった。